

テトテトテトテテ



校長だより 令和4年10月 NO. 5

ようこそ先輩！～教育実習生を迎えて～

朝夕の気温がぐんと低くなり、日に日に木々の葉も色づいてきました。幼稚部や小学部の子どもたちは、学校周辺に出かけ、栗やどんぐり拾いをするなど、「秋見つけ」を楽しんでいます。先日は、校庭のフェンスに掲げた卓球部・陸上部の「祝全国大会出場」の横断幕を見た地域の方が、お祝いと激励に来校され、学校前の田んぼで収穫された新米をプレゼントしてくださいました。早速、部活合宿や学校給食で、おいしい新米をいただいています。この度も、地域の方に応援され見守られている「松ろう」だと感じました。



幼稚部 校外歩行
「くりを いっぱい ひろったよ。」

10月は、本校の卒業生 須山勇希さんの教育実習を実施しました。須山さんは、本校の乳幼児教育相談を経て、幼稚部から高等部まで本校に在籍、中学部の時に、前福島校長先生の影響を受け、将来は教員になりたいと思ったそうです。また、須山さんは、本校のキャッチフレーズ「手と心でつながる わかりあえる喜び ～笑顔あふれる松ろう～」を作った当時の生徒会長でもあります。教育実習で、授業を担当した須山さんは、児童のつぶやきが分からず、「下を向いていると口の動きが分からないので、手話を使って伝えてください。」と依頼します。児童も、どうしたら須山さんに伝える方法を考え、手話だけでなく、図や文字を書くなど工夫します。須山さんが子どもたちと関わろうとする姿は、このキャッチフレーズそのものでした。教育実習を終えて、最も心に残っていることを聞くと、小学部宿泊学習の綱引きの場面だと答えてくれました。小学部の子どもたちと3週間過ごしてみて、気にかかったのは、個別や小グループでの学習や活動が多いこと。子どもと教員のつながりは深いですが、子ども同士のつながりは薄いのではないかと感じたそうです。そのような中、子どもたちが力を合わせて綱を引っ張る様子を見て嬉しかったそうです。さらに、「松



小学部 宿泊学習 1日目
火おこし体験の様子(左が須山さん)

ろうの魅力」も聞いてみましたので紹介します。3つの魅力はさらに磨きをかけ、さらに、子ども同士つながりが深まるよう、みんなで協力してやり遂げ、共に喜んだり悔しんだりする気持ちの交流ができる活動にも取り組んでいきたいと思っています。

～ 須山さんが思う「松ろうの魅力」 ～

- 子ども一人一人に応じた授業が受けられる
- 同じ障がいのある友達がいる
- 教師一人一人が子どもたちを見守っているからこそ、伸び伸びと過ごすことができる